

## 平成29年度 全国学力・学習状況調査結果について

和寒町教育委員会

文部科学省は8月29日、小学6年と中学3年を対象に4月に実施した平成29年度全国学力・学習状況調査の結果を公表しました。また、11月28日には、道教委から同調査の管内別平均正答率が公表されました。それによると、道内の公立小中学生の平均正答率は中学校の国語A・国語Bで全国平均と同じになりました。小学校の国語・算数すべてと中学校の数学A、数学Bは全国を下回りましたが、全国との差は縮める傾向となりました。本町の小中学校の結果は、全国平均と比較すると以下の通りとなりました。



| 教科    | 国語A   | 国語B    | 算数A    | 算数B    |
|-------|-------|--------|--------|--------|
| 和寒小学校 | 全国と同値 | 全国と同程度 | 上回っている | 下回っている |

| 教科    | 国語A      | 国語B      | 数学A    | 数学B   |
|-------|----------|----------|--------|-------|
| 和寒中学校 | やや上回っている | やや上回っている | 下回っている | 全国と同値 |

これによると、小学校では算数Aは全国平均を上回っていましたが、国語A・Bでは全国と同値又は同程度で算数Bは下回っていました。領域別で見ると、国語Aは「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」で、Bは「読むこと」で全国を上回っていました。算数Aは、全ての領域で全国を上回り、Bは「数と計算」で全国平均に最も近くなっていました。

児童質問紙では、「学校に行くのは楽しい」「授業で、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、自分の考えをしっかりと伝えている」「授業の最後に学習内容を振り返る活動を行っている」と回答した児童の割合が全国を上回っていました。また、地域の行事等に関わりを持ったり関心を抱いている反面、テレビを見たり、ゲームをしたりする時間が長い一方、授業以外の勉強時間が短い傾向にありました。

次に中学校では、国語A・B、数学Bで全国よりやや上回るか同程度で、数学Aは下回っていました。領域別では、国語Aは「書くこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」、Bは「書くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」が全国を上回っていました。数学Aは、「図形」、Bでは「数と式」「資料の活用」で全国を上回っていましたが、数学Aでは、各領域において無回答が目立ち全国平均を下回る結果となりました。

生徒質問紙では、「授業で、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、自分の考えを伝えた」「国語の勉強が好き」「数学の授業で自分の考えの理由が分かるように気をつけて書いている」と回答した生徒の割合が全国を上回っていました。また、地域の行事等に関わりを持ったりボランティア活動に参加したり地域の人との関わりが多く家で学校の宿題をしている割合が多い反面、将来の夢や目標を持っている割合が低く、テレビを見たり、ゲームをしたりする時間が長いのは小学校と同様で、授業以外の勉強時間が短い傾向にありました。

この調査結果を受けて、各学校では指導体制を見直し、学習環境の整備や学習規律の徹底、個人差への対応を急ぐこととしています。また、一日当たりの勉強時間や読書の時間が極端に短く、テレビやゲームに費やす時間が長い傾向にある現状を改善するために、引き続き学校と家庭が一体となった生活時間の見直しを図り家庭学習の定着に向けて取り組むことにしています。

(調査結果は道教委及び和寒町のホームページでも掲載されています。)